

文化・芸術



「有楽町駅附近」

1936年1月、油彩・板に紙
72・74cm×90・94cm
(岩手県立美術館蔵)

松本竣介 (1902～95年)

松本竣介の初期作品 いろいろな場所をさまさまの特徴である黒く太い 線。水平や垂直を意識 したこの線が建物の輪 郭や線路に用いられ、 平面的に塗られた画面 の中でモチーフの量感 が表現されています。 この骨太な線は、現在 常設展で作品をご覧い ただけるジョルジュ・

ルオー(1871～1958年)からの影響も指摘されています。また、画面を上下に分割する本作のような構図は、同時期に竣介自身が撮影していた東京の街角風景の、スナップショットのアンクルと共通します。いろ

〈名画の扉〉

大川美術館特集展示から

今週の日曜日、10月27日の午後2時から は、大川美術館で田中淳館長による講演会「松本竣介の街歩きの時間」を開催します。入館料のみでご参加いただけますので、常設展、企画展とあわせ、ぜひご聴講ください。

(池田)